

私共の地域貢献への取り組み

著者	宮脇 正一
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	30
ページ	7-8
発行年	2010
URL	http://hdl.handle.net/10232/17023

私共の地域貢献への取り組み

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻
発生発達成育学講座 歯科矯正学分野

宮脇 正一

現在、本邦の大学歯学部では、歯科医師過剰問題の是正を目的とした入学定員の削減や医科との統合に伴う歯系教員の削減など、依然厳しい状況下であり、教育や研究の成果をあげるために、国立大学を中心として、「口腔のQOL向上」をキーワードに共同研究を推進しつつあり、それに対応する組織として鹿児島大学に昨年口腔先端科学教育研究センターを設立したことを前号で紹介いたしました。さらに、大学には、これら教育・研究以外に、主に診療等による地域貢献も求められており、これまで様々な取り組みが行われてきました。本稿では、この1年間私共が関わった地域貢献への取り組みについて紹介させていただきます。

まず、以前から鹿児島大学歯学部が県歯科医師会と共に取り組んできた離島巡回診療について、私は一昨年末、初めて小宝島、宝島、中之島に行って参りました(図1~4)。これらの島の世帯数は30から80程度で、島には常設の歯科診療所が無いため、年に2回の歯科の巡回診療によって何とか島民の口腔衛生状態を保っている状態でした。この巡回診療では、2~3日間で治療を完結させる必要があることから、基本的に応急処置しか行えず、もっと時間をかけて本格的な歯科治療を行うべき患者も見受けられ、住民の口腔衛生状態を良好に保つまでには至っていない場合もあり、以前からそれが問題となっていました。さらに、各種専門医による治療が必要である場面も何度かあり、遠隔診断システムも必要ではないかと思われました。

次に、私共は現在社会貢献の一環として、過去4年

間にわたり、鹿児島大学の同窓会が主催する実践矯正セミナーに協力させて頂いております。これは、矯正治療を専門としない一般歯科開業医でも行うことの出来る症例と、専門医に紹介すべき症例を見分ける力を身につけたい歯科医師に対する卒後臨床研修コースです。具体的には、休日丸一日かけて実習を中心とした研修を2~3か月の短期間に計5~6回行うコースで、ベーシックコース(成長期の患者の矯正治療を行えるようにすることを目的とする実習コース)とアドバンスコース(成人患者の治療を行えるようにすることを目的とする実習コース)の2種類があります。両コースとも、受講生の評判は良く、現在、本コースで身につけた知識や技能を地域医療に還元して頂いておりますので、このような卒後教育への協力を今後も続けていきたいと思っております。

最後に、国民への啓発活動について、昨年私共の研究の一部がNHKのためしてガッテン(図5,6)で紹介されましたが、このようなメディアを通じた啓発活動を今後も続けていくべきだと感じました。また、本年私共が主催した第5回九州矯正歯科学会学術大会では、市民公開講座(演者:伊藤学而先生,山口和憲先生および私)とお口の無料相談を、鹿児島県民を対象に行いました。今後、このような機会も活用しながら、引き続き啓発活動を行いたいと考えております。

今後、大学歯学部も時代の要請に応じて変わる必要があると感じております。引き続きご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5



図 6